

天明校区新校準備会だより

天明校区自治協議会、天明校区小中学校 PTA 等で組織する「新校準備会」が発行しています。



第4号

第4回「新校準備会」を開催

第4回新校準備会の概要

8月5日（金）、天明まちづくりセンターの天明ホールにて、第4回「新校準備会」を開催しました。各校の校長及びPTA会長、各校区自治協議会会長、周辺保育園の保護者代表の14人が参加しました。

今回は、これまでの新校準備会や前回の基本計画素案（抜粋版）に対する意見等を踏まえて、より具体的な整備方針を記載した基本計画（これまでの検討状況）について説明がありました。前回の新校準備会で出された意見を反映した修正点や、天明校区で取り組まれている小中一貫教育カリキュラム、事業手法の検討などが記載されており、施設計画や防災、4小学校の閉校後の跡地活用について意見が出されました。

また、「義務教育学校開校までの教育環境の整備」として、義務教育学校の開校へスムーズにつなげるために、新校舎完成まで子どもたちの教育環境の充実をどのように図っていくべきか、いくつかの取組例について説明がありました。

引き続き開催予定である新校準備会での意見を踏まえながら、令和5年3月（予定）の基本計画の策定に向けて検討を進めていきます。

第4回新校準備会の様子



事務局から各資料の説明後、活発な意見交換を行うことができました。

基本計画(これまでの検討状況)の主な意見

- ・基本計画素案の全体としては、修正等が盛り込まれて詳しくなり、以前より良くなった。
- ・防災に係る各機能について、基本計画の段階で整備方針を定めるべきではないか。
- ・廊下や階段を含めて施設を総合的にみて、子どもたちの学びのスペースをつくってほしい。
- ・子どもたちに、個人のロッカーがあるとよい。低学年も含めて、きちんとした更衣室で着替えられるようにしたほうがよい。
- ・社会学習で使う古い道具等を保管するような室があるとよい。
- ・閉校後の小学校の跡地の活用について、活用に至るまでのスケジュールや、跡地の運営方法を、より詳細に組み立てていく必要がある。

義務教育学校開校までの教育環境の整備について

現時点では、義務教育学校の新校舎について、令和10年4月供用開始が見込まれています。義務教育学校の開校へスムーズにつなげるために、新校舎完成までに子どもたちの教育環境の充実をどのように図るべきか、事務局が3つの取組例を提示しました。

取組例①：小学校は4校体制のまま小中一貫教育の取組を推進

取組例②：義務教育学校型の仮設校舎を設置し、その後、施設一体型義務教育学校へ移行

取組例③：4つの小学校を先行して一体化し、分離型義務教育学校へ移行

取組例①は、現在の小中学校のまま、各学校が連携を密にし、小中一貫教育を更に推進していくというものです。取組例②は、天明グラウンドに義務教育学校型の大規模仮設校舎を設置することを想定していますが、多額の費用がかかります。取組例③は天明中学校グラウンドに後期課程（中学部）の仮設校舎、奥古閑小に4小学校を集約することを想定しています。参加されたメンバーからは取組例①を支持する声が多くあり、①の方向で取組を進めていくことになりました。参加されたメンバーのご意見は以下のとおりです。

・教育環境の充実早く取り組めば、それだけ成果はあるということは理解したが、取組例②と③は費用と2回の引っ越しが必要となり、子どもたちや先生方の負担が大きい。

・子どもたちや職員が環境に慣れたところに、また新しい校舎に移る必要があるため混乱を招く。

・子どもたちが安心して学ぶ仕組みをつくりあげるまでの期間が必要。新校舎の供用開始時に義務教育学校をスタートすればよい。

ご意見やご質問などがありましたら、熊本市教育委員会事務局の指導課もしくは学校改革推進課までお寄せください。 【指導課】 (096)328-2721 【学校改革推進課】 (096)328-2708